報告書の概要(1/2)

各方面の科学者の最高の知恵を踏まえてとりまとめ

2025年に目指す社会 5つの視点

1. 人々が健やかに、そして安全に生きられる社会
2. 高度に進化した情報・通信システムを駆使している社会
3. 自然を取り戻し、地域が活性化している社会
4. 地球環境とエネルギーの問題解決に取り組んでいる社会
5. 水問題や食料問題に適切に対応している社会

そのために推進すべきイノベーション 9つの分野 → 個別課題(例)

- (1) 健やかに生きるための社会基盤
(2) 人々の安全安心の確保
テレメディシン、元気に長寿 等
地震や台風に強い住宅 等
- (3) 文化・ライフスタイル
(4) 情報・コミュニケーション
(5) 新たなものづくりと基盤科学技術の創生
文化・文明遺産のデジタル情報化による文化の発信・相互理解、宇宙・深海等への活動領域の拡大 等
携帯型自動翻訳機、安全な情報通信社会 等
「落ちない」航空機 等
- (6) 国土・自然・地域の再生
「里山」等が復活した快適な都市、地域の特性を活かした地域活性化 等
- (7) 地球環境問題とエネルギー問題への対応
人工降雨技術による砂漠の緑地化、環境と調和したエネルギー供給体制 等
- (8) 水・食料問題への対応
水質変換技術による衛生的な水、環境とエネルギーに配慮した食料増産 等
- (9) 限界を突破する夢の実現
脳で考えたとおりに動く義手や義足、宇宙太陽光発電技術 等

報告書の概要(2/2)

イノベーションを生み出すための基盤

イノベーションを生み出す環境

イノベーションを生み出す環境整備に必要なこと

1. 人材育成システム
 - ・ 競争原理 - 流動性と多様性
 - ・ 学問の楽しさを伝えられる教師の育成 等
2. 研究開発システムの整理
 - ・ 拠点大学、地域大学
 - ・ 学協会の基盤強化 等
3. 社会制度設計
 - ・ 社会との双方向コミュニケーション
 - ・ 価値観を探究する科学 等

イノベーションを生み出す 学術研究のあり方

学術研究をイノベーションに活かすために必要なこと

1. 人文・社会科学と自然科学の協働。
分野を融合した総合的観点からの取り組みが必要。
2. 実社会とともにイノベーションに取り組む仕組みが必要。
3. 真理の探究に加えて、社会へもたらしえる功罪についても想定することが必要。